

**平成 22 年度**  
( H22 年 4 月 ~ H23 年 3 月 )  
**環境活動レポート**

平成 23 年 4 月 15 日

株式会社 北九州空き缶リサイクルステーション

有限会社 K A R S

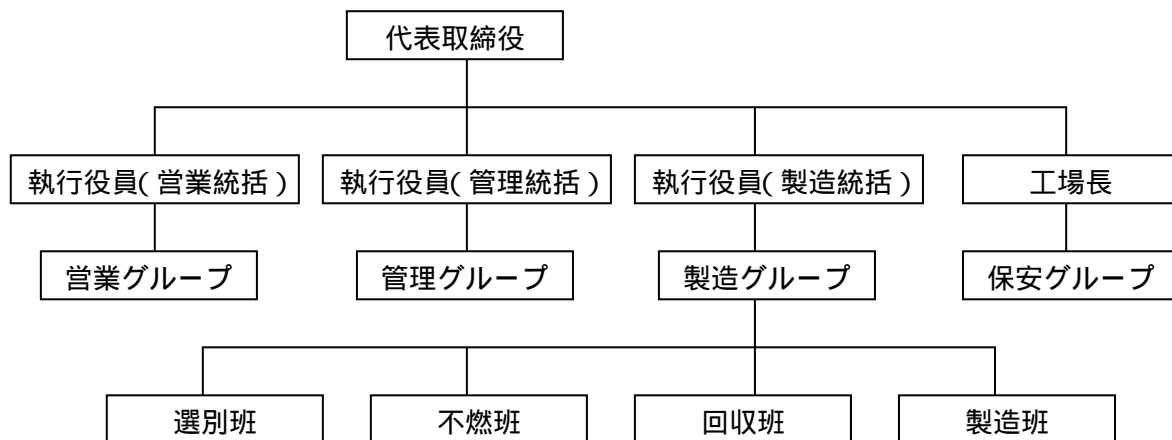
## 〔事業の概要〕

1. 事業所名称 株式会社 北九州空き缶リサイクルステーション  
代表取締役 三宅 憲一
2. 関連事業所名称 有限会社 K A R S  
代表取締役 谷口 幸雄
3. 事業所所在地 〒808-0021 北九州市若松区響町 1 丁目 62 番地 19
4. 設立年月日 (株)北九州空き缶リサイクルステーション 平成 12 年 8 月 10 日  
(有)K A R S 平成 15 年 8 月 5 日
5. 資本金 (株)北九州空き缶リサイクルステーション 6,800 万円  
(有)K A R S 1,000 万円
6. 事業活動の内容 飲料済み空き缶（スチール缶・アルミ缶）のペレット加工処理  
一般廃棄物の中間処理（選別・圧縮）  
産業廃棄物の収集・運搬及び中間処理（選別・圧縮）
7. 活動規模

(株)北九州空き缶リサイクルステーション				
活動規模	単位	H20 年度	H21 年度	H22 年度
加工原料取扱量	t	12,318	14,131	13,419
売上高	千円	1,419,499	877,148	1,245,405
従業員数	人	11	11	11
土地面積	m <sup>2</sup>	4,087		
床面積	m <sup>2</sup>	2,234		

(有)K A R S (第一工場)				
活動規模	単位	H20 年度	H21 年度	H22 年度
資源ごみ取扱量	t	2,500	2,249	2,135
売上高	千円	110,873	76,852	88,319
従業員数	人	21	20	24
土地面積	m <sup>2</sup>	(株)北九州空き缶リサイクルステーション敷地内		
床面積	m <sup>2</sup>			

8 . 組織図



9 . 環境管理責任者氏名及び担当者氏名、連絡先

責任者 : 工場長 武富 進  
担当者 : 執行役員 谷口 幸雄  
連絡先 : 093 - 752 - 5033  
F A X : 093 - 752 - 5055  
E -mail : info@k-ars.co.jp

## 〔環境方針〕

### （ 経 営 理 念 ）

私たちは、日々変化する社会が求めるものを  
提供し続けることにより、  
社員の幸福の実現と地域環境の保護に努めます

### （ 環 境 方 針 ）

- 1．環境関連法規を遵守します
- 2．製品歩留まりを向上させることで省資源化に努めます
- 3．使用燃料を削減することで温室効果ガスの発生を抑えます
- 4．徹底選別により廃棄物の再資源化率を高めます
- 5．団体回収を通じた環境コミュニケーションを推進します

平成 23 年 4 月 1 日

株式会社 北九州空き缶リサイクルステーション

代表取締役 三宅 憲一

## 1. 環境目標とその実績

### 1.1 環境目標の達成状況

当社は平成 20 年に、3 年後の平成 22 年度に達成すべき以下の目標を掲げ、継続的に各項目の環境活動に取り組んでいる。

二酸化炭素排出量	
第一工場 [廃棄物選別ライン]	
資源ごみ搬入量当たり排出量	…… 15%削減
第二工場 [ペレット化ライン]	
稼働時間当たり排出量	…… 6%削減
総排水量 (= 給水量)	…… 6%削減
廃棄物排出量 (最終処分量比率)	…… 0.3%削減
資源リサイクル活動普及 (空き缶回収量)	…… 100%増加

### 1.2 中期環境目標

平成 19 年度及び平成 20 年度上期実績を基準とした 3 カ年の中期環境目標を設定し、各年度にあたる項目を達成していくことを当面の目標としている。当年度が最終年度にあたる。

項 目	基 準	目 標		
	H19 年度 及びH20 年 度上期実績	H20 年度	H21 年度	H22 年度
<b>二酸化炭素排出量の削減</b>				
第一工場 [廃棄物選別ライン]	-	5%削減	10%削減	15%削減
資源ごみ搬入量当たり(kg-CO <sub>2</sub> /t)	43.8	41.61 以下	39.42 以下	37.23 以下
第二工場 [ペレット化ライン]	-	2%削減	4%削減	6%削減
稼働時間当たり (kg-CO <sub>2</sub> /時間)	491	482 以下	471 以下	462 以下
<b>総排水量 (給水量) の削減</b>	-	2%削減	4%削減	6%削減
1 ヶ月当たり (m <sup>3</sup> /月)	213	209 以下	205 以下	200 以下
<b>埋立処分量比率の削減</b>	-	0.1%削減	0.2%削減	0.3%削減
総搬入量比 (%)	25.5	25.4 以下	25.3 以下	25.2 以下
<b>空き缶回収量の増加</b>	-	50%増加	80%増加	100%増加
1 ヶ月当たり (kg/月)	13,521	20,282 以上	24,338 以上	27,042 以上

1.3 平成 22 年度の目標とその実績

項 目	平成 22 年度	
	目 標	実 績
<b>二酸化炭素排出量の削減</b>		
第一工場 [廃棄物選別ライン]	15%削減	16.3%削減
資源ごみ搬入量当たり(kg-CO <sub>2</sub> /t)	37.23 以下	36.67
第二工場 [ペレット化ライン]	6%削減	1.0%削減
稼働時間当たり(kg-CO <sub>2</sub> /時間)	462 以下	486
<b>総排水量の削減</b>	6%削減	43.7%削減
1ヶ月当たり(m <sup>3</sup> /月)	200 以下	120
<b>埋立処分量比率の削減</b>	0.3%削減	7.1%削減
対搬入量比(%)	25.2 以下	18.4
<b>空き缶回収量の増加</b>	100%増加	1.2%減少
1ヶ月当たり(kg/月)	27,042 以上	13,353

水質汚濁、騒音、振動等については、関係法令による規制を遵守し、公害の防止に取り組んだ。廃棄物の処理及び清掃に関する法律を遵守し、適正な運営を行なった。

1.4 環境目標の担当部署と責任者

項 目	平成 22 年度		
	目 標	担当部署	責任者
<b>二酸化炭素排出量の削減</b>			
第一工場 [廃棄物選別ライン]	15%削減	工場長	武富
資源ごみ搬入量当たり(kg-CO <sub>2</sub> /t)	37.23 以下		
第二工場 [ペレット化ライン]	6%削減	製造グループ リーダー	富永
稼働時間当たり(kg-CO <sub>2</sub> /時間)	462 以下		
<b>総排水量（給水量）の削減</b>	6%削減	製造グループ 製造班	木村
1ヶ月当たり(m <sup>3</sup> /月)	200 以下		
<b>埋立処分量比率の削減</b>	0.3%削減	製造グループ 選別班	木谷
対搬入量比(%)	25.2 以下		
<b>空き缶回収量の増加</b>	100%増加	執行役員 (管理統括)	深津
1ヶ月当たり(kg/月)	27,042 以上		

## 2. 主要な環境活動計画の内容

毎日の業務日報に以下項目のチェックリストを設け、日々、項目のチェックを行なった。

「2.4 団体回収活動の普及」においては、回収時における特筆事項を日報へ記載した。

### 2.1 二酸化炭素排出量削減のための取組

- 【選別班】
  - ・ 昼休み、終業後の電力不要時は負荷遮断を行なう
  - ・ 天井照明の夜間一部消灯を行なう
  - ・ 荷積みや荷降ろし時、重機の空ぶかしをしない
  - ・ 使用していない重機のアイドリングストップを行なう
- 【回収班】
  - ・ 荷積みや荷降ろし時、車両のアイドリングストップを行なう
  - ・ 効率のよい、回収ルート走行を実施する
  - ・ 車両の空ぶかしをしない
  - ・ 車両の点検・整備（空気圧など）を小まめに実施する
- 【製造班】
  - ・ 外灯の適切なON・OFFを心掛ける
  - ・ 解砕機、造粒機への連続投入による過負荷運転の防止する
  - ・ 不要電源を遮断する
  - ・ 適切な火元温度管理を行い、油使用量の削減につなげる
  - ・ 重油、空気の圧力を調整する
  - ・ 重機操作時の空ぶかしをしない
  - ・ 重機のアイドリングストップを行なう

### 2.2 総給水量削減のための取組

- 【選別班】
  - ・ 終業時、蛇口の閉め忘れ等無いか確認する
  - ・ 洗浄ホースからの水漏れチェックを行なう
  - ・ 配管からの水漏れの有無を確認する
- 【製造班】
  - ・ 蛇口の閉め忘れの有無を確認する
  - ・ 加水ホースからの水漏れを確認する
  - ・ 水冷塔からの水漏れを確認する
  - ・ 加水物の水切りを徹底する

### 2.3 廃棄物排出量削減のための取組

- 【選別班】
  - ・ 混在缶処理時のライン選別を徹底する
  - ・ ライン投入前の混在缶の土間選別を徹底する
  - ・ 土間選別時、ビン破片の安易な残渣投入をせず、できる限り選別する
  - ・ 破袋ヤードでの再選別を実施する

### 2.4 団体回収（資源リサイクル団体）活動の普及への取組

- ・ 学校、自治区会へ活動をアピールする
- ・ 企業（事業所）・公共施設への活動をアピールする
- ・ 各種イベントへ出展し活動普及に努める

### 3. 環境活動の取組結果の評価

平成 22 年度の環境活動への取組み結果の評価を行なった。結果は次の通りである。

項 目		単 位	目 標	実 績	目標達成 の判定
<b>二酸化炭素排出量の削減</b>					
第一工場 [廃棄物選別ライン]	資源ごみ搬入量当たり(kg-CO <sub>2</sub> /t)	kg-CO <sub>2</sub> /t	37.23 以下	36.67	
第二工場 [ペレット化ライン]	稼働時間当たり(kg-CO <sub>2</sub> /時間)	kg-CO <sub>2</sub> /時間	462 以下	486	×
<b>総排水量（給水量）の削減</b>					
1ヶ月当たり(m <sup>3</sup> /月)		m <sup>3</sup>	200 以下	120	
<b>埋立処分量比率の削減</b>					
対搬入量比(%)		%	25.2 以下	18.4	
<b>空き缶回収量の増加</b>					
1ヶ月当たり(kg/月)		kg/月	27,042 以上	13,353	×
参照	資源ごみ総搬入量	2,114 t/年			
	稼働時間	5,786 時間/年			

平成 22 年度実績は、推進 5 項目の内、達成 3 項目、未達成 2 項目という結果である。

#### 3.1 二酸化炭素排出量の削減

##### (1) 第一工場 [廃棄物選別ライン]

前年度同様に以下の取組みを継続・徹底したことで目標を達成した。

- ・昼休み及び作業終了後に天井照明(水銀灯)を交互点灯とし電力量を削減
- ・空き缶回収ルートを見直すことで運搬効率を向上(=使用燃料の削減)
- ・廃棄物の積載効率を見直して運搬回数を削減(=使用燃料の削減)

##### (2) 第二工場 [ペレット化ライン]

基準値である 3 年前の実績からの削減は進んだが当初目標は達成しなかった。6%の削減を掲げたが 1%の削減に止まる。通期でみると、目標を達成したのは 8 月と 9 月の 2 ヶ月だけであり気温上昇による外的な影響のほうが大きかった。風量調整など A 重油使用量低減に向けた取組みを試行錯誤したが期中にその効果を得ることが出来なかった。次期は装置改造に踏み込んだ取組を実施する。

#### 3.2 総排水量（給水量）の削減

前年度の取組を継続したことで目標を達成した。

特に効果のあった取組は、ホースによる水散布からジェット洗浄機による清掃に切り替えた点。また第二工場では、クーリングタワーからの水漏れ及び水量バランスを定時にチェックし、加水作業時における水使用量を適正化したことも目標達成に有効であった。

### 3.3 埋立処分量比率の削減

目標 25.2%以下に対し 18.4%という結果であり目標を達成した。目標設定時にペレット化工場発生の「埋立ばいじん」を誤って加算していたため、目標自体がかなり平易なものとなった。埋立ばいじんの発生量は資源ごみ総搬入量との相関性がないため、埋立残渣とは別々に管理する必要があり前期よりデータから除外している。

### 3.4 空き缶回収量の増加

大口の回収先 1 件を失ったことで目標値を大きく下回った。さらには 3 年前の基準値を 1.2%下回り、取組の初期値に戻ってしまった。大口の回収先は民間企業からのドラム缶であり、より環境負荷の低いリサイクル先への斡旋を当社で行った。

前年度に引き続き団体活動内容を精査し、異物混入が多い 担当者の変更等により団体活動の体を成していない といった団体先を登録からはずした。なお新規に登録した団体は 18 件であり、活動自体は広がっている。

年間の施設見学者は 3,195 名（前年度比 359 名減）、リサイクルの啓蒙活動に努めた。

## 4. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

## 5. 総括

3 ヶ年の中期環境目標への取組を終了した。平成 23 年度はエコアクション 21 ガイドラインを 2009 年度版に移行することから、新たな中期環境目標を設定して臨む。環境管理責任者を 1 年単位で変更し、この 3 年間で 3 名への教育・育成を図ってきた。次年度はこの 3 名を中核に「環境経営システム」を強化する。

3 年間の取組の中で、目標達成に際して“設備投資による効果”が大きいことを感じた。次年度からは計画的な投資を織り込んでいく。

空き缶の団体回収量を環境コミュニケーションのバロメーターにしていることから、参加団体の取組み意欲を喚起し、引き続き量の拡大に努めたい。

## 6. 添付資料

別紙 1（許可の内容、施設の状況）

別紙 2（廃棄物処理料金）

別紙 3（処理実績～受託した産業廃棄物の処理量～）

別紙 1 ) 許可の内容、施設等の状況 (有KARS)

作成年月日	平成 23 年 4 月 1 日
作成者	三宅 憲一

	産業廃棄物処分類	一般廃棄物処分類	産業廃棄物収集運搬業	
許可年月日	平成 20 年 10 月 8 日	平成 22 年 6 月 9 日	平成 18 年 12 月 13 日	平成 19 年 2 月 16 日
許可有効期限	平成 25 年 10 月 7 日	平成 24 年 6 月 8 日	平成 23 年 12 月 12 日	平成 24 年 2 月 15 日
許可番号	北九州市 第 07620106357 号	北九一廃 第 211 号	北九州市 第 07600106357 号	山口県 第 03500106357 号
処分類の区分	中間処理業 (選別・圧縮、圧縮)	北九州市内に限る	積替え又は保管を除く	
事業の範囲	金属くず、ガラスくず、 廃プラスチック類、紙 くず	B 類 (一般廃棄物のう ち空き缶、ペットボト ル、空き瓶、紙コップ)	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コン クリートくず、陶磁器くず、燃え殻、汚泥、廃油、 廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、 ゴムくず、ばいじん	
事業計画の 概要	「飲料済み容器等」の産業廃棄物を運搬・回収し、機械選別を中心とした選別ラインにより「ビニール袋、アルミ缶、スチール缶、びん、ペットボトル」にそれぞれ分別圧縮してリサイクルします。 中間処理後に発生した自社発生廃棄物を含む産業廃棄物を適正処分地へ運搬します。			
事業の用に供 するすべての 施設	<b>施設の種類</b> ・選別・圧縮施設 (24 時間 / 日) 処理能力 金属くず 90.8 t / 日 ガラスくず 96 t / 日 ・圧縮施設 (24 時間 / 日) 処理能力 廃プラスチック類 8.4 t / 日 紙くず 6.0 t / 日  <b>設置場所</b> 北九州市若松区響町 1 丁目 6 2 番地 1 9		<b>保持車輛</b> ・軽トラダンプ 1 台 ・2 t ダンプ 1 台 ・4 t ダンプ 1 台 ・4 t ウイング 1 台	
処理工程図 及び処理方式	<pre>                     graph LR                         Input[投入ホッパー (金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、 廃プラスチック類、紙くず 引取り運搬含む)] --&gt; BagBreak[破集袋機]                         BagBreak --&gt; MagSep[磁選機]                         MagSep --&gt; AlumSep[アルミ缶 レター]                         AlumSep --&gt; HandSort[手選別ライン]                         HandSort --&gt; PET[ペットボトル]                         HandSort --&gt; Paper[紙くず]                         HandSort --&gt; Glass[ガラス瓶]                         BagBreak --&gt; Comp[圧縮機]                         MagSep --&gt; Steel[スチール缶 プレス機]                         AlumSep --&gt; Alum[アルミ缶 プレス機]                         Paper --&gt; Comp                     </pre>			

別計量が可能であれば、数品目を一緒にお持ちいただいても構いません。計量は 10kg 単位です。ただし、少量の場合は手ばかりによる 1 kg 単位計量を行います。

<p><b>混在資源ごみ</b> (缶、びん、ペットボトル)</p>	<p><b>10 円/kg (逆有償)</b> 持ち込みに際し、運賃補助あり。 〔 100kg 以上      若戸大橋券 2 枚 〕 混在比率の偏ったものについては別途協議の上、単価設定いたします。</p>	
 <b>空き缶</b>	<p>スチール缶</p>	<p>時価買取 … 鉄建値 C プラス - 10 円/kg</p>
	<p>スチール缶、アルミ缶混合</p>	<p>小数点以下切捨て      最低買取価格 4 円/kg</p>
 <b>びん</b>	<p>3 色混合ビン (茶、透明、その他)</p>	<p>20 円/kg (逆有償) ふた付き、バラ搬入可です。 その他びんの割合が 5 割以上の場合 25 円/kg</p>
	<p>アルミふた</p>	<p>5 円/kg 袋入りが条件です。袋の種類は問いません。</p>
 <b>ペットボトル</b>	<p>バラ</p>	<p>10 円/kg (買取)</p>
	<p>ルコパ ッグ 入り</p>	<p>15 円/kg (買取) ルコパ ッグ は汚損していなければサイズは問いません。</p>
	<p>注 1 : 中身入りの缶は取り扱いしません。 注 2 : 選別精度の悪いアルミ缶についてはスチール缶と同じ価格とします。 注 3 : 中身入りの缶は取り扱いしません。 注 4 : 選別精度の悪いアルミ缶についてはスチール缶と同じ価格とします。 注 5 : 一斗缶は他のものと分けて荷降ろしができるように積み込んで下さい。 注 6 : 一斗缶に付着した固形物は極力ふき取って下さい。</p>	



**KARS**

(株)北九州空き缶リサイクルステーション

(有)KARS

〒808-0021 若松区響町 1 丁目 62 番地 19 北九州エコタウン内

TEL 093-752-5033      FAX 093-752-5055

別紙 3 ) 処理実績 ~ 受託した資源廃棄物の処理量

(単位：トン)

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法	平成 21 年度	平成 22 年度
収集運搬		混在缶		57	173
		不燃ごみ		435	404
		金属くず		184	225
		ガラスくず		490	442
		廃プラスチック類		266	230
		ばいじん		44	42
		紙くず		14	21
収集運搬量合計				1,492	1,537
中間処理		混在缶	選別、圧縮	1,422	1,351
		不燃ごみ		435	404
		金属くず		292	285
		廃プラスチック類		17	24
		ガラスくず		68	50
		紙くず		14	21
中間処理量合計				2,249	2,135
中間処理後の 廃棄物	最終処分	ガラスくず	管理型埋立	410	388
		最終処分量小計		410	388
	再資源化等	金属くず	金属ペレット	1,070	987
		廃プラスチック類	PET ペレット	177	181
			サーマルサイクル	252	228
			マテリアルサイクル	0	0
		ガラスくず	カレット	271	241
			軽量骨材	80	54
		紙くず	再資源化	14	20
	再資源化等量小計			1,864	1,711
中間処理後処分量合計				2,274	2,099